

監査系

科目名・単位数	監査論演習A 2単位	科目分類	監査系	応用・実践科目
配当年次	2年次・秋学期・昼・夜	担当教員	はった しんじ 八田 進二	
履修形態	選択必修			
授業概要	<p>本演習は、高度な倫理観と健全なアカウンティング・マインドを備え、かつ、国際的な感覚を備えた会計プロフェッションを養成するために、監査の理論と実務に関する基本的な知識を身につけることを目的としている。この目的を達成するために、監査論演習Aでは、特に「会計および監査上の不祥事」について正しく理解することを課題としている。なお、口頭および文書による課題の発表および多方向的な全員参加の討論を通じての演習方式で授業を進める。</p>			
到達目標	<p>「会計および監査上の不祥事」とそれを支える基本概念についての理解を深めることおよび文献調査能力やコミュニケーション能力、表現力などを身につけることが最終的な目標となる。</p>			
授業方法	<p>事前に担当個所と担当者を決め、教材の熟読と関連レジュメの作成を行って、授業時に報告を行い、それを踏まえてのディスカッション等を行う。</p>			
事前・事後学習	<p>事前学習として、テキスト等の該当箇所を熟読して、演習時の報告の準備を行っておくこと。(120分) 事後学習として、報告及び討議した内容について、正しい理解が得られていたかについて、必ず、復習しておくこと。(120分)</p>			
成績評価の方法	<p>授業への参加度合や適時レポート等の提出を求めるが、それらを総合的に評価する。 ①授業への参加度合い(50%)、②個別レポートの提出(50%)</p>			
フィードバックの方法	<p>毎回の演習で取り上げるテーマ、および、それについて行われた討議の内容等について、正しい理解が得られていることを確認するために、個別の確認を行う。</p>			
履修上の注意	<p>財務会計および監査論に関する基本科目をバランスよく履修しておくこと。</p>			
授 業 計 画				
第1回	<p>オリエンテーション 使用教材『開示不正』を中心に概説を行い、今後の進め方について詳細な指示を行う。</p>			
第2回	<p>序章 開示不正とアカウンタビリティ 近年、特に問題視されている「開示不正」全般に共通する課題として、アカウンタビリティの欠如の問題とそれを克服するための施策等について検討する。</p>			
第3回	<p>第1章 ミートホープ株式会社の事案 2006年に発覚した食品偽装の不祥事問題を取り上げ、事案の概要、かかる開示不正による被害者、および、それらの原因等について、関連する資料を用いて検討する。</p>			

第4回	第2章 九州電力株式会社の事案 2011年に発覚した、「やらせメール問題」を取り上げ、事案の概要、第三者委員会の報告書の内容と会社サイドとの事実認定における齟齬等について、関連する資料を用いて検討する
第5回	第3章 株式会社木曾路の事案 2014年に発覚したの銘柄牛偽装提供事案を取り上げ、不正行為の概要、メニュー等における開示不正による被害者、それらの原因等について、関連する資料を用いて検討する。
第6回	第4章 株式会社阪急阪神ホテルズの事案 2013年に発覚したメニュー偽装事案を取り上げ、複数の過年度における偽装表示の実態、そうした開示不正の主な原因・背景等について、関連する資料を用いて検討する。
第7回	第5章 三井住友建設株式会社・旭化成建材株式会社の事案 2014年に発覚したマンション杭基礎工事における施工データの不正事案を取り上げ、過年度のデータ不正等の実態、かかる不正の原因・背景等について、関連する資料を用いて検討する。
第8回	第6章 東洋ゴム工業株式会社の事案 2015年に発覚した建築用免振積層ゴムの構造方法等の国への虚偽報告事案を取り上げ、かかる不正の実態、そうした不正の原因・背景等について、関連する資料を用いて検討する。
第9回	第8章 三菱自動車工業株式会社の事案 2016年に発覚した燃費不正事案を取り上げ、かかる不正の実態等、および過去の複数の不正問題について、関連する資料を用いて検討する。
第10回	第10章 オリパス株式会社の事案 2011年に発覚した長年にわたる有価証券の評価損の損失隠蔽に関する事案を取り上げ、経営トップが関与した会計不正の実態と会計監査が機能しなかったこと等について検討する。
第11回	第11章 大王製紙株式会社の事案 2011年に発覚した元会長による子会社を通じて行っていた不当な資金借り入れの事案を取り上げ、不正の手口、かかる不正を防止できなかった原因等について検討する。
第12回	第12章 株式会社東芝の事案 2015年に発覚した経営トップらが関わった組織的な不適切会計の事案を取り上げ、不正の実態、不正を抑止できず、会計監査人も摘発できなかった原因等について検討する。
第13回	日本取引所自主規制法人公表のプリンシプル 「上場会社における不祥事対応のプリンシプル」および「上場会社における不祥事予防のプリンシプル」を取り上げ、それぞれの原則に掲げられている項目の内容等について議論する。
第14回	会計・監査・ガバナンス三位一体の議論の確認 会計および監査上の不祥事を防止。抑止したり、健全な企業活動を担保するためには、会計や監査に限定されずに、内部統制を含むガバナンス問題を検討することの重要性について理解する。
第15回	全体の総括
テキスト	八田進二編著『開示不正—その実態と防止策』白桃書房 八田進二編著『会計・監査・ガバナンスの基本課題』同文館出版
参考図書	鳥羽・八田共訳『不正な財務報告』白桃書房 八田進二他監訳『決定版 COSO 不正リスク管理ガイド』日本公認会計士協会出版局